

講義名	経済学入門		
科目区分	専門基礎科目		
担当教員	辻 美代		
開講期・曜日・時限	後期 木曜日 3時限	授業形態	
履修開始年次	1年生	単位数	2

主題と概要

私たちは新聞やテレビで毎日多くの経済問題に触れています。現在、国境を越えてモノ・ヒト・カネ・情報が行き交い、経済活動は一国内にとどまりません。経済活動はグローバルに展開しており、これら問題を理解するためには経済学の知識が必要です。この講義では、経済の仕組みについて、基礎を学びます。また、戦後日本の経済発展を振り返りながら、現在の問題を考えます。さらに、世界経済を拡大してきた、自由貿易やグローバル化についても考えます。

到達目標

経済学を初めて学ぶ者が経済学の考え方や概念を学ぶことによって、経済問題を理解するために必要な基礎知識の取得を目指します。ヒト・モノ・カネ・情報に国境がない現在、世界は繋がっています。世界情勢に目を向ける姿勢を身につけることで、様々な事柄に対し、自分で考えることを目指します。

提出課題

レポート課題を課します。課題は、授業の復習まとめや配布資料のまとめ、また、次回授業の予習など、適宜授業中に指示します。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

小テストや中間試験の後には、解答を提示し、解説します。

評価の基準

平常点、中間・期末試験を総合して評価します。
 平常点・・・30点
 中間試験・・・20点
 期末試験・・・50点

履修にあたっての注意・助言他

普段から新聞やニュースなどで日本や世界の経済活動に関心を持ってください。毎日ニュースをフォローしてください。新聞、テレビ、ラジオ、携帯などニュース媒体は問いません。真面目に受講すること。授業中の私語、遅刻・途中退室などの妨害行為、迷惑行為は厳禁です。

教科書
・使用しない。

プリント資料及び参考文献

講義中にプリント資料を配付します
 主な参考文献
 ・中谷清・中村保編『1からの経済学』碩学会、2010年
 ・小塩 隆士『高校生のための経済学入門』ちくま新書、2002年
 ・若田 規久男『経済学を学ぶ』（ちくま新書、1994年）
 ・若田 規久男『日本経済を学ぶ』（ちくま新書、2005年）

授業計画

1. 「経済」とは
2. 取引、市場、政府
3. 需要と供給① 需要
4. 需要と供給② 供給
5. 需要と供給③ 均衡
6. 市場の失敗と政府の役割①
7. 市場の失敗と政府の役割②
8. 国内総生産①
9. 国内総生産②
10. 戦後日本経済の発展①
11. 戦後日本経済の発展②
12. 冷戦終了後の世界経済①
13. 冷戦終了後の世界経済②
14. グローバル化とその問題点
15. まとめと復習

※状況に応じて変更します

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）
○ イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート
エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション
カ：実習、フィールドワーク

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習：毎日、ニュースをフォローする・・・10分
 復習：授業中に配布した資料（新聞記事など）を見直し、纏める・・・20分
 課題：与えられた課題を図書館やインターネットで調べ纏める・・・2時間

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考